

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3671000010
法人名	社会福祉法人 勝寿会
事業所名	グループホーム あゆの里
所在地	徳島県勝浦郡勝浦町大字棚野字竹国13番地の1 (電話) 0885-42-3700

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年6月27日

【情報提供票より】(平成 20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	— 円	昼食 — 円
	夕食	— 円	おやつ — 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	64 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	勝浦病院、福井歯科
---------	-----------

徳島県 グループホームあゆの里 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は周囲を緑に囲まれた自然豊かな環境にある。全ての利用者は地元の方であり、入居後もスムーズに地域住民との交流が図られている。職員を育てる取り組みに力を注ぎ、特に内部研修においては法人内で委員会を設置して職員自らが意欲的に計画し、2~3ヶ月に1回開催している。職員全員が資質向上に向けて意欲的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議は平成20年5月から開催されている。市町村との連携は、法人の地域包括支援センターを介して情報交換などを行っている。重度化した場合や終末期に向けた方針の共有については、医師や看護師を含めたチーム全体で対応が共有されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を十分理解し全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 過去に運営推進会議は開催されていなかったが、平成20年5月から開催されている。家族、行政職員、民生委員、地域包括支援センター職員、町会議員、事業所職員が参加している。事業所からは利用者の生活状況を報告し、参加者からは地域の情報や運営に関する意見などが出されている。会議録は電子媒体を通じて全職員に回覧し確認されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪が多く、その際に苦情や不満、意見等を言ってもらえるよう声をかけている。出された意見等から把握した課題を検討し、サービスの改善に向けて取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近所への散歩や買い物、ゴミ出しの際に地域住民との会話があり、日常的な交流が図られている。また、事業所のお祭りや運動会、敬老会等に地域の方が参加するなど積極的に交流している。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	残存能力を最大限に活かし、地域の中でその人らしく自由で穏やかな生活が過ごせるよう支援するといった、事業所独自の理念が作成されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については職員間で常に話し合われており、日々の声かけやサービス提供の場面において反映されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所への散歩や買い物、ゴミ出しの際に地域住民との会話があり、日常的な交流が図られている。また、事業所のお祭りや運動会、敬老会等に地域の方が参加するなど積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を十分理解し、前回評価での課題について話し合い改善につなげるなど、全職員で積極的に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去に運営推進会議は開催されていなかったが、平成20年5月から開催されている。家族、行政職員、民生委員、地域包括支援センター職員、町会議員、事業所職員が参加している。事業所からは利用者の生活状況を報告し、参加者からは地域の情報や運営に関する意見などが出されている。会議録は電子媒体を通じて全職員に回覧し確認されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の地域包括支援センターを介して情報交換を行うなどして市町村と連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活の状況や外出の際の写真を掲載したホームだよりを年4回発行し、暮らしぶりを伝えている。また状態の変化があった時などは、その都度報告している。金銭においても毎月報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪が多く、その際に苦情や不満、意見等言ってもらえるよう問いかけている。出された意見等から把握した課題を検討し、サービスの改善に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動などの際には十分引き継ぎを行い、利用者一人ひとりの状況を把握して継続したサービスが提供できるよう努め、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の委員会で2～3ヶ月毎に計画して、研修を行っている。感染予防や救急法、口腔ケア、食中毒予防、認知症予防など、職員それぞれの専門分野に応じた内容になっている。また外部研修への参加を職員自ら申し出るなど、資質向上に意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入するとともに、全国グループホーム協会へ依頼して石川県のグループホームへの視察を行い、サービスの改善につなげている。しかし県内の同業者と交流する機会がほとんどなく、他の事業所の情報や交流のきっかけがつかめない状況である。	○	研修に参加した際に交流を図るなど、地元の同業者同士でサービスの質の向上につなげられるよう取り組むことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には家族とホームの見学に来てもらい、他の利用者や職員と交流する等、場の雰囲気に徐々に馴染みながら利用が開始できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊事や後片付けなどの家事をともに行ったり、利用者と職員がお互いを気遣う会話をしながら生活するなど、ともに支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情等から意向を把握するなど、要望等を言葉に表すことが困難な利用者にも本人本位に対応できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を反映する介護計画が作成されるよう関係者で話し合われている。計画には家族にサインを得て、関係者間で統一したサービス提供がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが行われ、状態に変化があった際にはその都度見直しをしている。また著しい状態変化がなくても気付きや新しいアイデアがないか常に職員間で話合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、医療面において安心感がある。また利用者や家族の要望に応じて、通院支援を行うなど柔軟なサービス提供に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望に応じた専門の医療機関への受診支援を行っている。隣接した医療機関からの定期的な訪問診察があり、またいつでも相談でき、適切な医療を受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、体調の悪化時等に随時話し合われている。家族や医師、看護師など関係者間で話し合わせ、統一した対応ができるよう方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄などの誘導時においてさりげなく声かけする場面が見られるなど、プライバシーが確保されている。個人情報の保護においても研修などで理解に努め、対応が徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	帰宅願望がある利用者には受容的に受け止め、その都度外出に付き添うなど、一人ひとりの要望やペースに合わせた生活が過ごせるよう柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や献立づくり、調理、配膳、食事、後片付けなど全て一緒に行い共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて楽しめるよう支援している。利用者からの希望が多い夕食後の入浴はスムーズな睡眠にも繋がっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の中で食堂のおかみさんをしてきた人に調理を手伝ってもらったり、お先立ちさんをしてきた時の話をしてもらうなど利用者一人ひとりの生活歴や習慣、趣味を踏まえた上での役割があり、生活が充実したものとなっている。また、畑仕事や近隣への水神様へのお参りが心やすらぐ時間となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や買い物、ドライブ、四季折々のお花見などの外出が毎日積極的に行われている。また、利用者、家族、職員との旅行も企画、実行し意欲的に外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	その日の気分や外に出たいという要望等を見逃さないよう見守り、職員間で連携し対応している。日中は施錠せず安全で自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策等のマニュアルがあり、年2回の避難訓練、消火器訓練が行われている。地域の消防団にも協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士がおり食事バランスの配慮がなされ、一人ひとりの栄養摂取量を把握している。また水分補給は利用者の嗜好(コーヒーやお茶等)に応じた飲み物を提供し、食事時以外でもこまめに補給できるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁にはお花見や行事の写真を貼り、季節感が感じられる。写真は季節ごとに交換され、家族や来訪者、利用者が楽しめるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた家具、日用品が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮している。利用者の希望により畳部屋への変更も行っている。		